



## ご挨拶

会長 井上悦子

2017（平成29）年10月1日の日本小児はり学会総会において、役員改選が行われ、2019年（平成31）年8月31日まで会長を続投させていただくことになりました。

前任期中は学会創設10年記念大会、WFAS 東京つくば2016参加、認定小児はり鍼灸師制度創設、IGTJMとの学術提携協定書調印、普及リーフレットの作成等、無事学会の事業を進めていくことができました。これも偏に会員のみなさま、そして役員、事務局のスタッフのご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

微力ではございますが今期も日本小児はり学会発展のため一層力を尽くしてまいりたいと存じます。

さて、今期は10年という区切りの年を超え、日本小児はり学会の一層の飛躍の年としてまいりたいと心新たに更なる活動に取り組んでまいります。

小児はりが持っているポテンシャルは私たちが想像する以上です。

2017年の第11回学術集会は、そのポテンシャルを発揮させるスタートの学術集会として参加者のみなさまの期待に応える充実した学会となりましたことをご報告申し上げます。

特別講演では「小児はり」の治効機序を心理学的、生理学的最新知見を交えて桜美林大学リベラルアーツ学群 教授の山口創先生に「皮膚から考える子どもの発達と小児はり」と題してご講演いただきました。一方、教育講演として未来工学研究所22世紀ライフセンスセンター主任研究員の小野直哉先生には、ISOを始めとする多くの国際組織の動きが活発化するなかで、日本鍼灸の国内外の対応の課題についてお話いただきました。

また、「小児はり体験会」では、役員の先生方だけでなく、第1回認定小児はり鍼灸師となられた6名の会員の先生方の「小児はり体験会」を企画いたしました。認定された先生方の技術を体験していただき、さらに多くの認定小児はり鍼灸師が誕生されることを願って止みません。

また、これまでの学会活動の成果からか、小児はりには国内だけではなく、海外からも熱い注目を浴びるようになってまいりました。それにつれ、学会の使命であります小児はりの研究と普及はより一層、その責任も問われるようになってまいりました。小児はりには、日本オリジナルの鍼法のひとつとして位置づけられることも踏まえ、学会が取り組んでいかなければならない事業や活動も顕在化し、多岐にわたるようになってまいりました。会員のみなさまと共に一つひとつ、着実に事業を進めてまいりたいと思っております。ご支援賜りますよう切にお願い申し上げます。

第11回学術集会の直前に、本会理事の野々井康治先生が、ご逝去されました。ここに謹んでこころよりご冥福をお祈りしますとともに、日本小児はり学会設立時から学会の発展に人一倍尽力していただいた野々井康治先生のご遺志を継いで、学会の発展と小児はり普及に役員共々邁進してまいりたいと思っております。